

ミュージズ NO.10 平和のための博物館市民ネットワーク通信

発行：2003年7月

事務局：立命館大学国際平和ミュージアム

館長：安斎育郎

編集：山辺昌彦、山根和代

イラスト：戸崎恵理子

603-8346 京都市北区等持院北町 56-1

Tel: 075-465-8151. Fax: 075-465-7899 <http://www.ritsumei.ac.jp>

平和博物館国際ネットワークのニューズレターは、まだ発行されていませんが、5月にベルギーで平和博物館国際会議が開催されましたので、その様子を中心に海外のニュースと、国内の平和博物館の活動をお伝えします。

第4回平和博物館国際会議：ベルギーで 5月に開催

**写真を見たり、意見の交流ができるよう
になりました。**

www.peacemuseums.org

第四回平和博物館国際会議が、ベルギーのオステンドで5月5日から5日間、開催されました。アメリカ、イギリスを中心としたイラク攻撃と新型肺炎の影響のために参加者が予定より少なく、**17カ国から60人が出席**しました。日本から参加したのは、「草の家」、「第五福竜丸展示館」、「太平洋戦史館」の代表者と平和研究者の8名でした。

国際会議では、「戦争の記憶から、平和教育へ」というテーマで、交流を行いました。

5月5日には、主催者である「イーペルタワー」(Iizertoren)博物館のダーク・デメウリー氏(Dirk Demeurie)は、「たとえこの会議に出席できなくても、インターネットを通して会議に関わることができる」と挨拶をされました。つまり、**次のホームページで、発表原稿(英文)を読んだり、**

知事のブレイネ(Breyne)氏は、「イーペルタワーは、平和、自由、寛容の博物館として国際的に知られており、第四回平和博物館国際会議の組織者として、重要な役割を果たしている」と挨拶をされました。

またイーペルタワー博物館のバエテン(W. Baeten)氏は、「第一次世界大戦で亡くなったフラマン人兵士の追悼行事として始まった巡礼の旅は、76回になりますが、今日それは世界で最も古い、そして最大の平和行進になりました。



22 階のイーペルタワーには、年間 10 万人が訪れます。平和という言葉は、動詞なのです」と挨拶をされました。

平和博物館国際ネットワークのコーディネーターであるピーター・ヴァン・デン・ダンガン博士(Dr. Peter van den Dungen)は、国際ネットワークの状況について話をされました。特に 1998 年には、立命館大学国際平和ミュージアム館長の安齋育郎氏を始め、多くの方の協力ですばらしい国際会議が開催されたことに対して、改めて謝辞を述べられ、大きな拍手がありました。

またアフリカのズル(Zulu)の踊りや歌が披露されました。

5 月 6 日には、ゲント大学(University Ghent)のゲルト・カストリック(Geert Castryck)氏は、1994 年にルワンダで約 100 万人が殺され、どのように虐殺の記憶に対処すべきなのか、虐殺後どのように生きていくべきのかなどについて話されました。

さらにピーター・ヴァン・デン・ダンガン(Dr. Peter van den Dungen)博士が、「平和・反戦の記憶を通した平和教育」と題して基調報告をされました。(要約を、後程紹介します。)

その後ルク・グロリエウクス(Luc Glorieux)氏が、「戦場の旅と平和の旅」と題して「平和を実現するためには、平和教育が必要です。しかしこれまで十分な平和教育がなされていません」と話をされました。

会議の参加者は、第一次世界大戦で戦死した人々の墓や、イーペルのフランダーズ戦場博物館へ行きました。また**メニン門**

(Menin Gate)で 1928 年以降、第一次世界大戦で戦死した兵士への追悼式が毎日行われていますが、そこへも行きました。一年に一度の行事ではなく、毎日行われているので、本当に驚きました。

夜も会議が開かれ、二つのグループに分かれました。一つのグループでは、太平洋戦史館の岩淵宣輝氏が報告されました。別のグループでは、イタリアのミラノ市のピエーラ・カラメリーノさん夫妻(Piera Nanetti & Giancarlo Garamellino)、そしてポーニャの国際平和ポスター資料センター(International Peace Poster Documentation Centre)のビットリオ・パロッティ(Vittorio Pallotti)氏が活動を報告されました。

5 月 7 日は、3つの分科会が開かれました。すべての発表について紹介できませんので、関心のある方は、www.peacemuseums.orgを御覧ください。(英文です)

夜は、観覧船の上でバーベキューを楽しみながら、交流をしました。

5 月 8 日は、**ブリーンドク(Breendonk)強制収容所**を訪問しました。暗くひんやりとする収容所に、ユダヤ人や戦争に抵抗した人々の展示がされていました。いかに狭い所に入れられ、言語を絶するような状況に置かれていたのかを想像することができました。

その後**ヨーロッパ議会**を訪問しました。そこでフランドル人の議員に会って、**3 つの要望**をしました。

1. 平和の実現のために努力した人々

の歴史や、平和の文化に関する展示ができるようなヨーロッパ平和博物館をベルギーに建設していただきたい。

2. 現存している平和博物館へ財政的援助をし、移動展示物の作成、移動に協力していただきたい。なお平和博物館国際ネットワークとして、欧州議会で展示をする際は、協力を惜しまない。

3. 欧州議会の憲法に、イタリアの憲法 11 条のような戦争放棄を明記していただきたい。

以上の要請を受けて、欧州議会の議員から「最大限の努力をします」という回答をいただきました。

夜は、平和博物館国際ネットワークについて、会議が開かれました。**次の国際会議は、スペインのゲルニカ平和博物館で 2, 3 年後に開催しようということが決まりました。**ただ時間不足で、役員体制、予算、規約、ニューズレターなどについて十分話すことができませんでしたが、今後インターネットを通して討議しようということになりました。

5 月 9 日には、第一次世界大戦で亡くなった兵士の墓地へ行きました。ドイツのケーテ・コルヴィッツの彫刻がありましたが、実際にペーターと言う息子を亡くし、その死を嘆き悲しむ両親の彫像が印象的でした。その後、ディスクムンデの「イーペルタワー」平和博物館を訪問しました。詳細は、

別の所に記します。午後は、5000 人の子どものための平和コンサートがあり、収益金はアフリカの子ども達に寄付されたそうです。夜はケリー家族(The Kelly Family)のコンサートがあり、愛と平和の歌を楽しみました。



基調報告(要旨) Keynote Speech

「平和・反戦の記憶を通じた平和教育」

ピーター・ヴァン・デン・ダンガン

国際会議はフランダースで開催されていますが、この地は第一次世界大戦の戦場でありました。戦争が終わって 81 年後たっても、数多くの戦死者の墓、戦争記念物、戦争博物館を通して、戦争の恐ろしさを思い出すことができます。

フランダースだけでなく、世界の至る所に戦争記念碑があり、イギリスでもどんな小さな村でも、第一次世界大戦で戦死した兵士の記念碑があります。2002 年ロンドンの帝国戦争博物館(The Imperial War Museum)では、第一次世界大戦などに関する 48000 の記念碑について情報を整理しています。また最近の研究では、オーストラ

リアに第一次世界大戦で戦死した兵士に関する記念碑が、約 5000 あると言われていません。

第一次世界大戦をテーマに作詩したカナダのジョン・マックレイ(John McCrae)の「フランダース戦場にて」(In Flanders Fields)は、カナダの 10 ドル札で見ることができます。

第一次世界大戦の戦死者への追悼式は、1928 年以降毎日(第二次世界大戦中を除いて)、イーペルのメニン門で行われています。毎年 11 月 11 日は、第二次世界大戦で戦死した兵士の記念行事がカナダ、アメリカなど様々な国で行われています。

その他、本、記録映画、戦場への旅行などで、若者に伝えられています。

対立は、国家、文化、個人のレベルであれ、人生と切り離すことができません。しかしこれは、武力で解決するという考えと同じではないのです。

時が過ぎると、戦争の記憶は薄れてきますが、記念碑や彫刻で戦争の悲惨さを伝えていこうとしています。東京の昭和館は、戦時中の日本人の生活を取り上げ、そのあり方が議論されています。日本には、女性と戦争をテーマにしたユニークな博物館の建設が予定されています。

第一次世界大戦では、逃亡した英国及びイギリス連邦の兵士が 300 人以上処刑され、その家族はずっと恥ずかしく思って生きてきました。しかし 2001 年リッチフィールドの近くに記念碑ができました。両手を後ろで縛られた少年兵が、目隠しをされ、処刑を待っているという像です。

また 2001 年には二つの世界大戦で死んだ動物を追悼して、イギリスの動物愛護団

体によって記念碑が作られました。

第一次世界大戦の状況は、イーペルの「フランダース戦場博物館」やディスクムイデの「イーペルタワー」博物館で知ることができます。どちらも反戦のメッセージのある戦争博物館とすることができます。

ベルギーの平和博物館として、カエカラレ(Kaekalare)にある Lange Max Peace Museum がガイドブックにあります。しかしそれは、第一次世界大戦中ドイツがベルギーを占領した歴史を記録した戦争博物館です。ベルギー市民の自由のために戦った人々への感謝の気持ちを、感じることができます。

2002 年帝国戦争博物館の分館(Imperial War Museum North)がマンチェスターのトラフォードパーク(Trafford Park in Manchester)に造られました。そこには「戦争が、私達の人生を決定する」というスローガンがあります。しかしこれは戦争の本質を隠すものです。なぜなら戦争、特にフランドルにおける戦争は、死と破壊、不幸と貧困をもたらしたからです。

確かに戦争によって歴史がつくられてきましたが、この分館を訪問する人々が、「戦争は避けられない」という印象を持つのは容易なことなのです。戦争の結果、人々が自由を獲得したとか、科学技術が進歩したという側面を見て、訪問者は戦争の不可避性を納得するのです。イラク戦争の場合も、たとえ大量破壊兵器が発見されなくても、残酷なフセイン政権の崩壊は、戦争の正当化に使われています。

戦争が起こったために、社会がよい方向に発展したことは否定できません。カントが論じたように、戦争の体験は、無秩序な

世界に、戦争を防ぐための国際的体制を創る重要な要素になりました。国際連盟、その附属機関の常設国際司法裁判所、国際連合、国際司法裁判所が、戦争の後つくられたのは、決して偶然のことではありません。20世紀前には、ソルフェリーノの戦い(1859)の結果、アンリ・デュナンが国際赤十字を創りました。

世界で戦争は記憶されていますが、戦争を避けようと努力した人々や、紛争を平和的に解決しようとした人々の努力は、ほとんど記憶されていません。私たちの戦争の記憶は偏っており、間違った歴史観であるだけでなく、今日の人々を励ますような歴史的事実を否定するものなのです。

平和の実現のために努力した人々が歴史の中で忘れ去られないようにした平和歴史学者が登場したのは、両世界大戦の間、そして特に1960年代でした。オランダの歴史学者のジャコブ・テル・メウレン(Jacob ter Meulen)は、「教科書に、平和主義者が記述される日が来ることを確信している」と述べています。しかしまだそのようになっていませんし、近い将来そうなる様子はありません。

平和の実現のために努力した人々が歴史の教科書に記述される前に、平和博物館で展示することができるでしょう。すでにガンジーやキング牧師やノーベル平和賞受賞者の展示が、多くの平和博物館でなされています。一人の平和主義者に焦点を当てた平和博物館は、人々を非常に鼓舞します。そして戦争や暴力を防ぎ、非暴力的手段で自由と正義のある世界をつくることは、魅力のある仕事であることを示しています。ガンジーやキング牧師に関する博物館以外

に、オーストリアのフランツ・イエーガーシュテッターの家(Franz Jaegerstaetter House)、ハーグのイ・ジュン平和博物館(Yi Jun Peace Museum)、岡まさはる記念長崎平和資料館があります。その他アンリ・デュナン、ネルソン・マンデラ、ダライ・ラマ、アン・サン・スー・チーは、オスロで2年後に開館するノーベル平和センターで展示される予定です。

ノーベル平和賞受賞者は、平和の実現のために努力した人々ですが、残念ながら彼らのことさえ忘れられているのです。世界には平和の実現のために努力してきた人々がたくさんいます。たとえ名前が知られていなくても、そのような人々のことを忘れるべきではありません。

私たちは第一次世界大戦の元戦場にいますが、この戦争を防ごうとした人々のことを忘れてはいけません。

イギリスには第一次世界大戦を戦った兵士が、40人弱いると考えられています。4月の初めに、第一次世界大戦退役軍人会主催で最後の同窓会があり、9人が出席しました。105歳のアーサー・バラクロウ氏は、タイムズ紙のインタビューで、「1917年の戦争は地獄だったが、今ではイラクが同じ状況だよ。戦争はいつだって間違っている。…イラク戦争は許せないね。若者がイラクに送られて、殺され、死んでいる。まだ人生で何も体験しないうちにね。殺すんなら、(イラクを攻撃している：訳者)首相を殺せばいい」と述べています。(The Times, 4月9日)

退役軍人の中には、戦争と軍国主義に反対して、平和運動で中心的役割を果たす人々がいます。ベルギーの退役軍人協会が、

その例です。

私たちは、戦死した人々のことを忘れてはなりません、戦争を防ごうと努力した人々を忘れてはなりません。ポーランド系ロシア人の銀行家で鉄道事業主であったジャン・ブロッホ(Jan Bloch)は、1898年に著書、「未来の戦争」(The War of the Future)6巻を出版し、第一次世界大戦を予言しました。1902年に死ぬまで、戦争の危険と予防の重要性を警告しました。スイスのルサーンに1902年に国際戦争・平和博物館を開設しましたが、残念ながら多くの人々に知られていません。しかし幸いなことに、2002年にルサーンで、開館百周年記念行事が行われました。

第一次世界大戦では、ドイツ軍によって史上初めて毒ガスが使用されました。その毒ガスは、ドイツの科学者であるフリッツ・ハーベルによって創られましたが、信じられないことに、1919年にノーベル化学賞を受賞しました。彼の妻であるクララ・イメルワールは、化学兵器を使った戦争を止めさせようと忠告しましたが、無駄でした。彼女は絶望的になり、自殺をしました。彼女に関する映画は長い間もみ消され、彼女は間違いであると考えられてきました。しかし1991年に核戦争防止国際医師会議のドイツ支部によって、クララ・イメルワール賞が創られ、人々に知られるようになりました。

その他、戦争の破壊から社会を守ろうと命を捧げた芸術家、教育者、哲学者、科学者、平和活動家がありますが、彼らは同じような問題に直面する世代の人々を鼓舞し、希望を与えるのです。

戦争の記憶が平和教育に貢献できる方法

のひとつは、戦争を予防し、平和の実現のために努力した人々を認めることです。戦死者の墓や戦争記念碑の横に、反戦平和のために努力した人々の記念碑を並べることによって、平和のメッセージを増やす機会を提供できるでしょう。

太平洋戦史館 第4回平和博物館 会議でのプレゼンテーション骨子

2003年5月6日 21:30-21:45

岩淵宣輝

太平洋戦争中、ニューギニア・ソロモン戦域で299,400人の日本の若者たちが戦死した。太平洋戦史館創設者、岩淵宣輝の父もその一人で、ダッチ・ニューギニアの港町、ホーランジャ(Hollandia = Netherlands)で1944年4月、米空軍B24の空襲で爆死した。宣輝3歳、父慶次33歳だった。ホーランジャの現在名はジャヤプラ、インドネシア共和国パプア州の州都で東経141度に位置している。その経線を五千km北に辿ると岩手県衣川、NPO法人太平洋戦史館に到達する。同時に、141度線は太平洋戦争の中心線でもある。最東端は宣輝が生まれた1941年12月日本軍が先制攻撃を仕掛けたハワイの真珠湾。最西端は昔のセイロン、現在のスリランカ、トリンコマリー軍港。

ジャヤプラから東経141度線を更に南下すると豪州のアデレードに行き着く。ここでは岩手の南部杜氏が豪州米で日本酒造りをしている。一挙に北半球にぶっ飛ぶとこの国際会議ネットワーク設立メンバーのお一人、札幌学院大学の坪井主税教授のご自宅のある北海道小樽市に行き着いてしま

う。

太平洋戦史館が建っている南傾斜の小高い丘は戦死者の遺家族にとって肉親を偲ぶ、フィールド・オブ・ドリームズなのです。戦史館活動を支える私達の理念、モットーは：「わするまじ」「剣を取るものはみな、剣で滅びます」聖書マタイ伝26章52節この御言葉の眞の意味を、ブッシュ大統領とブレア首相に是非よく理解し貰いたいと切望します。過去の戦争を通じて軍隊が人民を守らなかった事実を私たちは嫌というほど実感している。

太平洋戦史館は人命尊重、命の大切さ実践道場です。「命の重み」を子ども達に諭す大人たちに問いかけたい。他人を思いやるやさしい心の大切さを力説する人たちに言いたい。戦争が終わって60年近くになるのに、今もなお、百万人以上の若者の死体が海外の旧戦場で野晒しになったままなのですよ、と。私たちの努力が実って、2002年3月、日本政府は西部ニューギニア、ゲニムから28年ぶりに5人の日本兵の遺骨を日本にお迎えする事ができました。岩手出身兵が多く戦死したビアク島からは過去3年間で百人の日本兵の無言の帰国のお手伝いができました。

太平洋戦史館では展示活動を通じ、政治家たちの靖国神社参拝が百害あって一利なし、今日本人たちがやらねばならぬことは次の通り、と啓発運動を展開中です：

1. 「戦史館便り」を、年5回発行。時間をかけて、戦後処理がいかに未完のままなのかを訴え続けています。ことがことだけに誤解されぬよう慎重に論理的に戦死者に追悼の誠を奉げるには靖国参拝で安く、逃げぬこと（ヤスクニげぬこと）を

周知させる努力をしています。靖国神社は現人神だった天皇の為の戦死者をカミとして祀った軍事施設で終戦までは陸・海軍省が共同で管理していた。更に、1946年元旦の天皇の人間宣言で靖国神社の歴史的使命に終止符が打たれた。天皇が神でなくなった以上靖国の命（ミコト）たちもいつまでもカミサマで居座ってられる道理もなし。

小泉首相の靖国詣では自民党の総裁選での日本遺族会（政治結社・日本遺族政治連盟）向けの選挙公約。宗教活動でなく集票活動そのもので、まさに英霊を冒瀆する非道なパフォーマンスに過ぎない。創氏改名・神社強制参拝させられた周辺国の人々の地獄の苦しみに対する思いやり、共感する優しさを持ち合わせぬ政治家、それが今の日本の首相なのだ。そして、また総裁選が今年9月におこなわれる。

2. 太平洋戦史館の啓発活動は靖国神社や護国神社などの国家神道の神社と諏訪神社、駒形神社、故里の鎮守の森のカミサマと峻別出来る最低限の知識と知恵を日本人に持ってもらうため資料を用意して展開中。日本人を含めたアジアの同胞は「靖国軍国主義富国強兵国家神道非宗教神社」の呪縛から解き放たれねばなりません。日本人が自らその忌まわしい国家神道の呪いの鎖を断ち切らないで、外圧を利用し続ける事に終止符を今打たない限り、アジアの同胞との和解は達成できません。
3. 太平洋戦史館の未帰還日本兵搜索活

動は平和教育を机上の空論に終わらせぬため、若者たちをかつての戦場に立たせ、遺骸放置の実態を自分の目で確認させ、一旦戦争をしてしまったら、その後始末が、こんなにも大変だということに気づかせる。現在このプロジェクト、若者をピアクに連れて行くこと、を計画中です。

ヨーロッパの

「平和のための博物館」を見学して 太平洋戦史館 花岡千賀子

第4回世界平和博物館会議がベルギーで開催される…プログラムにはフランダース地方の平和博物館、英連邦の墓地、アントワープ近辺の強制収容所はじめ EU 本部の見学も含まれていて、普通は見学できないようなところばかり。この機会に、ヨーロッパの平和博物館が戦争をどのように記憶しどのように伝え、そしてどのように避戦につなげているかをこの目で見たい!…と経済状態もかえりみず、申し込み手続きをお願いした。またせっかくの機会なので英国の帝国戦争博物館、オランダのアンネフランクハウスなども見てまわる欲張りな旅程を作った。

戦争を記憶すること…たとえば破壊された彫刻であり、捕虜収容所で配られた様々なクーポン券であり、(洗面所のクーポン、お湯をもらうためのクーポン…本当です)要塞を利用した収容所、30分かけてゆっくりと死に至らしめる首吊りのチェーンだったり、これでもかこれでもか…と見る人に迫ってきて、その様を想像して恐ろしくも

なる。

ただ恥ずかしい話だけれど、昨年ハルビン、長春、瀋陽で731部隊の罪証陳列館、満州事変の陳列館を見学したときのような、針のムシロの上にすわるような感覚でない自分、ホットしている自分に気づいてドキッとした。

戦争を伝えること、たとえば英国の帝国戦争博物館では、吹き抜けのホールに展示された大型の何とも立派な兵器の数々。イラク戦争をどのように扱っているのか気になったし、タイメン鉄道の展示はあるけれど、アヘン戦争の展示がない。イギリスの博物館だから当たり前かもしれないが、私たちが当たり前と考えるうちは、まだ避戦には遠いかもしれない。避戦へのヒントはまだ見つけられないでいる。

平和博物館の方向

藤田 秀雄

イラク侵略と平和博物館

今回の国際会議には、わたしは、4つの課題をもって参加した。その第1は、世界のそれぞれの平和博物館が、ブッシュの戦争(侵攻)に対して、平和のために何をしたかということである。平和博物館は、現実の戦争と平和の問題に関して、適切な貢献をおこなう社会的責任があると考えられる。しかし、日本の平和博物館では、何を行ったかという情報が1部しか得られていないし、わたしが理事をしている第5福竜丸展示館でも、とくに今回の戦争に焦点をあてた集会、展示はおこなうことができなかった。

国際会議でもこの点に注意を払っていたが、とくに討論はおこなわれず、わたしの発言も事前の準備をせず、最終段階であつ

たため、属するグループ内の話題になりえなかった。

現実の問題にコミットできないならば、平和博物館の今後の方向について根源的な検討を行う必要がある。

この問題を考えるにあたって、まず考えなければならないのは、平和博物館のほとんどすべてが、過去の戦争や人権抑圧の事実を伝える歴史博物館だということである。

平和博物館は教育施設であり、平和教育に関し、重要な位置をしめている。そうであるならば、歴史博物館としての平和博物館の平和教育における位置付けをどう考えるべきなのか。

1985年、ユネスコは、第4回国際成人教育会議で、「学習権」という名の宣言を採択した。ここで強調していることは、成人教育全体のなかで、とくに重要なものを「学習」といい、その内容を識字、健康、生産等のための生きるのに不可欠な学習と歴史創造のための学習としている。歴史をつくる主体形成のために学習という主張は、この短い宣言のなかで、繰り返しのべられている。この教育思想は、成人の場合のみならず、子どもの教育を含めた教育においても同様に主張できよう（藤田『ユネスコ学習権宣言と基本的人権』教育資料出版社）。

歴史創造者になるためには、歴史学習は不可欠である。こういう意味で、歴史博物館としての平和博物館の意義は大きい。しかし、同時に、平和問題が拡大し、戦争の実態も大きく変化しているのであり、今日の問題も学ばなければ、現実に対応できない。

こういうことから、わたしたちは、今日の問題を積極的にとりあげる平和学習セン

ターとしての機能を、すべての平和博物館がもち、拡大していくことが、平和博物館の方向であると考えている。

EU とフランスの経験

第2の課題は、今回の旅を EU 研究の出発点にすることであった。日本の平和システムである憲法体制がきりくずされていく時、ヨーロッパでは、ヨーロッパの平和のシステムである EU が形成された。今後これは拡大し、経済的にも、アメリカに対抗する勢力になろうとしている（イラク侵攻は、こういう動向へのアメリカのあせりでもある）。日本が、東アジアの平和を構想する時、EU の経験をふまえなければならぬし、EU 研究は、わたしたち平和研究者の共通の課題である。

第3の課題は、第2次世界大戦におけるフランスの戦闘についての調査である。フランスは開戦後間もなく「休戦」した。この結果、アルザス地方はナチに奪われ、他の領土は2分された、一方は直接支配、他方は間接支配下におかれた。この時、もっと恥辱的だったのは、ナチへすすんで協力するフランス人が多かったことであった（ジャン・ドフラヌ『対独協力の歴史』白水社）。

しかし、それによって多くの人命は失われず、フランスの歴史的遺産は守られた。日本国憲法第9条は、あらゆる方法で武力紛争をふせぐとともに、万一攻められた時も、非戦をつらぬくという思想にうらづけられていた。であるならば、フランスの経験は、日本人がもっと研究し、学ぶべきことであると長い間考えてきた。今回は、会議の前に、2週間、フランスを歩き回った

のはそのためであった。これらの2つの課題については、先学の士に教えを得たいと思っている。

ケーテ・コルヴィッツとエラスムス

第4の課題は、ブリュッセル南駅の北にあるエラスムスの家に行くことであった。

平和教育は、過去の戦争の事実について知るのが目標ではなく、平和な世界創造の主体形成を目ざさなければいけないというのが、わたしの持論である（藤田『平和学習の入門』国土社）。したがって、平和教育は平和のための行動者（ピースメーカー）を育てなければならない。平和の認識は、ただちに行動へすすむものではない。行動へすすむには「正義」の感覚が必要であり、その感覚を身につけるひとつの道は、平和に生きた人の思想と行動から学ぶことであると考えてきた。

この視点からすれば、世界の平和博物館のなかに、ベルリンのケーテ・コルヴィッツ美術館やエラスムスの家は含められなければならないし、日本でいえば、山本宣治や内村鑑三らの博物館が平和博物館として作られなければならないと考えてきた。

こういう考えで、ケーテ・コルヴィッツの版画を数多く展示している沖縄の佐喜真美術館には開館時からささやかな協力をしてきた。最近では、長野県小淵沢のフィリア美術館でも、彼女の版画を展示していると聞いている。昨年はベルリンの美術館に行ったが、望外の出会いは、上海で、ケーテ・コルヴィッツに出会ったことであった。上海に魯迅の博物館がある。そのなかに小さな「内山書店」があり、そこで魯迅が、1936年に作ったケーテ・コルヴィッツ版

画選集と同版画展のポスターを売っていた。版画選集は、和とじ本で、魯迅作成のものと同一のものである。魯迅は彼の民衆文化運動のなかで、版画を重視し、この年に版画展を行っているのである。今回の会議への参加では、フランダースのかつての戦場で彼女の彫刻に出あうことができた。

しかし、ブリュッセルのバスがエラスムスの家に立ち寄ってくれることを期待していたが果たせなかった。会議終了後、ひとりで出かけた。エラスムスがここに住んだのは、わずかな期間であった（1521年、5か月間）。しかし、建物は、大きく、資料もきわめて多かった。エラスムスの当時の出版物や原稿だけでなく、当時の関係印刷物、美術工芸品も収集されていた。

第1の課題からいえば、平和博物館が歴史博物館をしてではなく、あらゆる平和問題のセンターとして、当面することをとりあげるよう努力すべきであろう。この点で、高知の「草の家」はあらためて学ぶべきものとおもう。また、「草の家」は最近、地元出身の反戦詩人楨村浩の詩集を刊行した。これはわたしの第4の課題からすればきわめて意義深い。

第4回国際博物館会議に参加して 京都教育大学 村上登司文

今回の会議は、大阪と京都であった第3回国際平和博物館会議に引き続いて、私にとっては2回目の参加でした。第1次世界大戦の戦跡を残すベルギーのフランダース地方で開催される会議ということで、どのように戦争記憶が保存されているかに関心

を持って参加しました。ベルギーとフランス国境付近で数十万の兵士が亡くなっており、フィールドトリップで見学したイーペルの「フランダース戦場博物館」やディスクムンデの「イーペルタワー」では、充実した展示内容により戦争の悲惨さが伝わり、平和博物館としての機能を十分に果たしていることがわかりました。

会議では私は、「記憶とアイデンティティ」の分科会で、国家のアイデンティティ形成において、戦争と平和記憶がどのような役割を果たすかについていくつかの報告を聞き、議論に参加しました。

私自身は「**平和博物館と軍事博物館の比較**」というテーマで報告しましたので、それについて少し紹介します。平和博物館は1990年代以降日本国内に多数開設されていますが、米英をはじめ外国には戦争を展示する軍事博物館が数多くあり、その実態は日本にはあまり知られていません。一方で、日本にも自衛隊広報施設が多く開設されています。特に、最近では佐世保と浜松と朝霞に三つの「大規模」な自衛隊広報施設が開設されました。

「戦争」を展示する世界の博物館では、「戦争に関する集合的記憶」を現在まで保存・活性化する機能を果たしてきたといえます。例えば、原爆被爆の集合的記憶が、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館で保存・活性化されています。真珠湾奇襲攻撃がハワイのアリゾナ記念館で。ユダヤ人など民族皆殺しが、アウシュビツ博物館、ドイツのダハウ強制収容所記念跡地、ワシントンのホロコースト博物館、イギリス戦争博物館のホロコースト展示室などで継承されています。南京虐殺は、南京虐殺記念館

で伝えられています。戦争体験を展示する各博物館は多数の入館者を集めており、それぞれの博物館では、ヒロシマ・ナガサキ、パールハーバー、アウシュビツ、ナンキンなどの保存されていた集合的記憶が、入館者に対して再生されて継承されることにより活性化されているといえます。

しかし、戦争体験は平和志向の視点からだけで継承されてきたものではありません。平和博物館と軍事博物館では戦争の扱い方が異なります。軍事博物館の社会的機能は、自国が行った戦争の歴史を継承し、特に祖国防衛戦争と解放戦争を伝え、その社会的機能として入館者の国防意識を啓発し、愛国心を涵養することにあります。軍事博物館での殉職した英雄の展示や、戦争記念モニュメントや、兵士のための国立墓地は、祖国が行った戦争における戦争殉職者を追悼・顕彰する作用があります。

世界各国には、平和博物館よりも多数の軍事博物館があり、軍事博物館の方が古い時期から開設されています。つまり平和博物館と比べて軍事博物館の方が開設数が多く、歴史も長く、そして規模も大きいといえます。世界では軍事博物館の方が、人々に対してそれだけ影響力が強いです。アメリカの軍事博物館はアメリカ国民から広く支持されており、多数のアメリカ人が娯楽のためにも訪問しているようです。

日本では、外国と比較して現在まで多数の平和博物館が開設されています。日本では、規模が大きい平和博物館がいくつもあり、平和博物館への入館者数は軍事博物館への入館者数よりもかなり多くなっています。戦後の日本人の平和主義的意識が、平和博物館の開設を支持し展示内容を発展さ

せてきたといえ、そうした平和博物館が入館者を通じて平和主義的意識を広く国民に形成するという循環作用があったといえます。今後も、日本ではこの循環作用を維持し、さらに平和博物館が世界各地に作られることにより平和志向の態度を国際的に広げていくことが課題といえます。

注：今回の国際平和博物館会議で報告した内容は、拙論「平和博物館と軍事博物館の比較—比較社会学的考察—」（『広島平和科学』25号、2003年）に掲載予定です。

平和博物館略報

札幌学院大学 坪井主税 （国際会議諮問委員）

私は行く前、SARSや旅客機テロの不安もさることながら、2年遅れの国際会議は大丈夫なのかという不安を持っていた。だが、終わってみれば、私の不安は吹っ飛んで、メイン会場（オステンド市文化センター）を引き受けたオステンド現地実行委員会への感謝の気持ちに変わっていた。彼らは、本当によくやってくれました。

そのオステンド現地実行委員会のリーダーは、エリック・シールマン教授。現在の専攻は音楽だが、かつては経済学を教えたとのこと。行動派率先垂範、全体会議では、今会議の最大の特徴であるデジタル機器の導入を成功させるべく、機器の配置・テスト・調整を、額に汗、腕輪まくりしてやっていた。他の実行委員によれば、教授は「顔が広く」、その存在は「カリスマ的」。国際会議には、こんな人が必要なのだ。オステンド市、フランダース州、EU議会などからの補助金の捻出は、このシールマ

ン教授に負うところ大だったのではないだろうか。

参加者は約60人。アメリカ、アフリカ、インドからも来ていた。来る予定だった中国の人が急遽来れなくなったのは、残念だった。私たち日本人参加者は8人。分科会には、それぞれ別れて出た。実践報告的な「平和博物館と平和教育」には、第五福竜丸の藤田秀雄さん、「草の家」の山根和代さんとキム・ヨンファンさん、太平洋戦史館の岩淵ご夫妻、英国ブラッドフォード大学平和学部大学院生の西本圭子さん、そして私。学術研究的な「戦争の記憶と国家・超国家意識」には京都教育大の村上登司文さん。事例研究的な「ジェノサイド（集団虐殺）の発生とその後の社会再建」には、8人の中であいている人が適宜出た。私は特に、山根和代さんに啓発されたという平和博物館（スペイン、バレンシア州ラバルドゥイショ）他のスペイングループの報告に感動した。若き女性のほとばしる情熱、そしてそれを支え補佐するベテラン男性市議会議員の組み合わせが、絶妙で、実に魅力的だった。参加者全員でバスで行ったフランダース博物館もイーペル博物館も、展示物や展示方法に工夫が凝らしてあって、いい勉強になった。EU議会訪問も、興味深かった。夜9時からの、ホテルでの各国博物館紹介も、時間は少なかったが、いい情報交換になった。最終日など、国籍にして5ヶ国、人数にして8人で、まず中華レストランで食事、次にイタリアンバーで一杯、最後は残った4人で、私のホテルに行き、最後のさよならの乾杯をした。国際会議っていいなー、と改めて、実感した。

「事務局会議」は拡大した形で行われた。

会報の編集・有料化、会議のNGO化などが今後の課題として提起された。私は、国際諮問委員として、今回も、次回の国際会議の時と場所、それに伴う事務局担当者候補の推薦をした。次回はスペイン、できれば2年後の2005年、遅くとも2006年、そして事務局担当者候補のうち、アジア・日本担当者として、立命館大学国際平和ミュージアムの安齋育郎さんと「草の家」の山根和代さんを推薦した。そのうち、採集決定が出ると思います。みなさん、スペインに決まりましたら、今度はSARSも旅客機テロの心配もないでしょうから、一緒に行きましょう。

「有事法制が日本を守ってくれる」とい う「亡霊」

平和資料館「草の家」

キム・ヨンファン

第4回平和博物館国際会議で

去る5月ベルギーで開かれた第4回平和博物館国際会議に参加した。山根先生の紹介で世界各国の参加者と交流する際、ありがたいことに多くの方より西森館長の健康を気遣う言葉をいただいた。また「草の家」の活動にも深い関心を示してくれ、世界の平和博物館ネットワークの中における「草の家」の役割と位置づけを実感することができた。

私は、今年の3月19日から高知で続くイラク侵略反対市民行動と東アジア平和市民連帯の重要性について発表した。過去の歴史的な記憶を現在の問題にどう結びつけるかという側面からも、今回のイラク侵略戦争は世界の平和運動にとり、現在私たちの抱えるとても大切な課題である。にもかかわらず、今回

の会議で、この問題がしっかりと捉えられなかったことは残念であった。ただ、参加者と反戦活動の経験を話す中で強い連帯意識を感じることができ、また実際にヨーロッパの街のあちこちで、反戦の旗や「ブッシュを国際刑事裁判所へ」と書かれた横断幕などを目にするのができ、ヨーロッパにおける高い反戦の熱気を確認した瞬間となった。

国家の境界を越え、ヨーロッパ共同体へ

今回の会議に参加し一番印象に残ったのは、地域共同体に向かって進むヨーロッパの動きであった。列車や飛行機に乗り国境を越える際、何の検査もいらず、統一された通貨を使うため両替の必要さえなかった。ビザや入国審査、税関検査などの複雑な過程を済まなければならないアジアでの越境を思うと、とてもうらやましく思えた。ヨーロッパ連合の国々をまるで国内のように車や列車で自由に移動する若者たちを見て、国家の境界を越えることの意味を再び考えさせられた。今回の会議でも、イタリア、スペイン、フランス、オランダなどの参加者は自家用車でベルギーまで来た。人が国境を自由に越えられるということは、つまりは多様な文化や価値観なども自由に交流できるということだろう。そして、侵略の帝国、アメリカの暴走を阻止するためにも、地域共同体へと向かうヨーロッパの動きはこれからもっと加速するだろう。

「有事法制」と東アジアでの平和

地域共同体の和解と協力へ向かい進むヨーロッパと比べ、東アジアの現実はどうだろうか？

アメリカの戦争を支援するための戦争準備法が「有事」の名前で作られた。北朝鮮の

脅威を言い訳に軍国主義化する日本の保守政治勢力の意図は、教育基本法改悪、平和憲法改悪の動きに明らかに現れている。現在、世界第1、2位の軍事力を保有する超強大国アメリカと日本が経済危機の北朝鮮を相手にする“恐喝と脅迫の綱引き”は、東アジア地域に何より深刻な危機状況を生み出している。

最近、韓国の盧武鉉(ノムヒョン)大統領と小泉首相が次々とアメリカを訪問した。両国の首脳は、アメリカの軍事主義の牽制と平和実現を望む東アジア市民の意志を無視し、屈辱的な対米追従外交を見せた。このことにより、アメリカの軍事的、政治的、精神的な植民地状態からの解放が、日本と韓国の両国に何よりも切迫な共通の課題だということを再確認した。

東アジアの平和を威嚇する日・米・韓の軍事同盟に抵抗するには、東アジア平和共同体のための市民連帯をもっと強化すべきである。これは、「戦争」か「平和」の選択を強いられているわれわれの、生存に直結する問題でもある。

このような東アジアの市民連帯は、普遍的な歴史認識の共有という土台より出発すべきである。「創始改名」の妄言で問題となった極右政治人「アホ太郎」(麻生太郎)は、お詫びはしたものの、発言の撤回はしなかった。(彼が1979年まで社長に努めた麻生グループの母胎企業、麻生鋳業所は九州最大規模の朝鮮人強制労働鋳山である。1944年まで約8000人の朝鮮人が強制連行された)

「拉致ファシズム」を助長し、日本の核武装を主張する阿部晋三官房副長官、北朝鮮に対する「自衛的先制攻撃」を公言する有事法制成立の主犯石破茂防衛庁長官、

拉致家族の奪還のため「対北朝鮮戦争」を扇動する石原慎太郎東京都知事のような極右政治勢力は、今「大東亜共栄圏の復活」を夢見ている。

ドイツのミュンヘンで訪ねたナチの虐殺現場、ユダヤ人収容所「ダッハウ」(Dachau)の正門には「労働は自由への道」(ARBEIT MACHT FREI)と書かれてあった。60余年前、多くのユダヤ人は「労働は自由への道」という言葉を読みながら「死の道」へと歩き進んでいったのだろう。今、「有事法制が日本を守ってくれる」という「亡霊」が日本社会を漂い始めている。

国際交流の醍醐味

平和資料館「草の家」山根和代

今回初めて韓国の平和研究者、平和活動家のキム・ヨンファンさんと国際会議に参加しました。

私は2001年に全国にある平和博物館、約50館と、これから平和博物館を創りたい団体に対して、アンケート調査を行いました。その結果は、「立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要」に載せて下さいましたが(2003年3月発行第4号)、報告ではその結果と、全国における「草の家」についてまとめました。平和博物館の目的で一番多いのは、平和教育の推進ですが、公立と私立には、大きな隔りがあることがわかりました。「草の家」の西森茂夫館長が言われるように、確かに民立民営の場合は資金不足で大変ですが、自由に活動ができるという利点があります。(詳細は、紀要を御覧下さい。また英文の発表原稿は、

www.peacemuseums.org に載っています。)

紙面に制限がありますので、国際会議で印象に残ったことを書きます。

欧州議会へ要望する前に、その内容を話し合いました。イタリアのピエーラ・カラメリーノさんが、「日本の憲法第9条のように、戦争を放棄する条文を、ヨーロッパ議会の憲章に入れたらどうでしょう？」と提案されました。イタリアの憲法第11条にも、同じような内容であるとのことで、数名の議員に会って提案しました。きっかけは、1998年の国際会議後、「草の家」に来られ、鳥居昭美氏製作の憲法9条をテーマにした版画でした。改めて、芸術の力の大きさを感じました。ピエーラさんは、「草の家」の活動を英文ニュースレターで知り、ミラノですばらしい平和博物館活動を始め、現在お連れ合いのカラメリーノ氏と共に活躍されています。

またスペインのラバルドゥイショでも、「草の家」をモデルに平和博物館が作られました。そこから初めて国際会議に2名（マリア・ホセさん: Maria Jose とローラ・ガルシア: Lola Garcia さん）参加されました。そこのホームページには、以前岡村夫妻が「草の家」を代表して広島・長崎の被爆者のパネル写真を贈呈されたことが、スペイン語で紹介されています。

さらにパキスタンのカラチ大学教授のシカンダー・メーディ（ Prof. Sikander Mehdi）氏に、「草の家」の活動について話すと、インドとパキスタンの国境に平和博物館を創りたいと考え始められ、国際会議で発表をされる予定でした。しかしビザが間に合わず、参加できませんでした。

今後の御活躍が楽しみです。

今回改めて、国際交流の大切さと楽しさを感じた国際会議でした。

平和博物館国際会議に出席して ブラッドフォード大学 西本圭子

2003年5月5日から4日間、第4回平和博物館国際会議がベルギーのオステンドで開かれた。私は現在、1年間休職し英国ブラッドフォード大学大学院に留学しており修士論文に平和博物館と平和教育を扱うため、5本のエッセイ提出を直後に控えつつも何はともかく参加することにした。

SARSの影響で渡航をとりやめたケースが何例か見られたのが残念だったが、会議では様々な国の平和博物館での活動やその分析が発表された。特に3日目は3分科会に分かれ、私が参加した Group C (Peace Museums and Peace Education) では熱心な活動が博物館サイドの方から報告された。それぞれの平和博物館では「平和な状態」を作り出す為に色々な方法が取り入れられ実践されており、今までの「博物館」が持っていた一定のイメージを修正する時期が来ていることを感じた。まさしく「平和博物館を出る時に、希望を持って自分が出ることを実行しようとする」具体的な機会を提供しようとする博物館のタイプである。スペインのゲルニカ博物館は積極的に学校の児童生徒が博物館で勉強できる企画を準備していると聞いた。高知の草の家では2003年3月に始まった対イラク攻撃での死者のために灯火を捧げる活動を行い、高知市に Peace Message を届けた。そして、中

には博物館を調停・和解 (Reconciliation) の場として提供しようという試みが見られる博物館もあり、単に物を陳列・展示し順路に従い見学するだけでなく、より具体的な行動や活動を取り入れ、博物館と来館者との双方向が可能で社会との接点が増えた博物館が今後、更に増えるだろうと思われた。

また会議場を離れ第 1 次大戦を教訓とした二つの平和博物館やその戦没兵士の眠る墓地、元ドイツの強制収容所などを訪問した。いずれも印象深く、考えさせられることが多かったのだが、ここでは特に二つの大戦をベルギーではどのように伝えようとしているのかについて私が感じたことを書きたい。

イープル (Ieper) にある In Flanders Fields Museum もディクスムード (Diksmuide) にあるイーペル塔 (Ijzertoren) 博物館も共に、第 1 次世界大戦を伝えるものだった。私は日本で生まれ育ったので、第 1 次世界大戦というとても歴史の範疇を越えない、遠い出来事のように感じていた。しかし、この二つの博物館ではその大戦中の銃後の生活や前線の実態がイープルの博物館では印象的な展示方法により、イーペル塔では大量の展示によって具体性を持って私に訴えてきた。イーペル塔博物館では軍隊の中に存在した民族問題 (Flemish と French) も取り上げてあり、日本と同種の問題がベルギーでも見られることをあらためて確認した。

日本では「戦争」と言うといわゆる「15 年戦争 (1931-1945)」を思い浮かべがちだが、ここヨーロッパでは、特に戦場となったベルギーでは第 1 次世界大戦終了から 80

年が過ぎたが、その影響が色濃く残っているのだと痛感した。そして、第 2 次大戦時の元ドイツ強制収容所では目や耳を覆いたくなるような過去が厳然として存在していた。

二つの大戦を体験し、それをどのように次世代に伝え、戦争がなく (消極的平和) 各人が尊厳を持って生きていくことの出来る (積極的平和) 世界を作ることができるのだろうか。過去とどのように向き合い、現在進行中の事実をどのように解釈し、どのような世界を作り上げていくのか。平和博物館がどこまでそれに迫ることが出来るのか。やや抽象的だがそのようなことを考えた 4 日間だった。

ベルギーの戦争博物館

下記の戦争博物館を、国際会議の参加者は訪問しました。写真など、平和博物館国際ネットワークのホームページで見ることができます。 www.peacemuseums.org

フランダース戦場博物館 : In Flanders Fields Museum

第一次世界大戦をテーマとした戦争博物館で、訪問者は展示物を見るだけでなく、当時の兵士などの人生を個別に知ることができるようになっています。連絡先など詳細は、次の通りです。

Cloth Hall, Grote Markt 34, B-8900 Ypres

Tel: +32(0)57.22.85.84

Fax: +32(0)57.22.85.89

flandersfields@ieper.be

www.inflandersfields.be



イーペル塔：The Ijzertower Diskmuide Museum

84メートル、22階のイーペル塔には、主として第一次世界大戦がテーマで、展示がなされています。第二次世界大戦をテーマにした展示も、少しあります。本物の塹壕を体験できるようになっており、訪問者は当時の様子を体験できるように工夫されています。

Ijzerdijk 49, 8600 Diksmuide, Belgium

Tel: 051 50 02 86 Fax: 051 50 22 58

ijzertoren@unicall.be

www.ijzertoren.org

平和博物館国際ネットワーク

帝国戦争博物館 (Imperial War Museum)

イギリスの帝国戦争博物館では、2月に第一次世界大戦の兵士の中で、12名の詩人を紹介しました。詩人は、Wilfred Owen, Siegfried Sassoon, Robert Graves, Charles Sorley, Isaac Rosenberg などです。

また第一次世界大戦で使われた塹壕の展示が4月21日まで行われました。軍服、日記、手紙などが、展示されました。

帝国戦争博物館では、戦場への旅を行っています。例えばフランスのヴェルダン、ノルマンディ、ベルギーのイーペル、ベルリンなどです。

Imperial War Museum:

www.iwm.org.uk

刀を鋤に平和センター・美術館：

アメリカ

3月から4月にかけて、「知恵と共感」というテーマで、社会的行動としての芸術作品が展示されました。

4月19日から7月19日には、子どもの権利に関する国連憲章をテーマに、子どもたちの絵画が展示されています。

(通信 Harbinger より)

Swords Into Plowshares Peace Center & Gallery: 33 East Adams, Detroit, Michigan 48226 USA

swordsintoplowshares@prodigy.net

イギリスの反核運動を象徴する像

ウェールズのタリア・キャンベルさんによると、グリーンナムコモンにおける反核運動を象徴する像の除幕式が、7月20日にカーディフ市役所で行われます。像の制作に関するビデオも完成しました。

www.wfloe.fsnet.co.uk

greenhamsculpture@hotmail.com

ラバルドゥイショの平和博物館: スペイン

3月の国際婦人デーには、世界の女性に関する展示をしました。ハウメー世大学の平和学・開発修士課程と提携し、ジェンダーに関するシンポジウムも行いました。スペイン語ですが、ホームページがあります。連絡先は、次の通りです。

Museu de la Pau: Palau dels Marquesos de Vivel C/Sanchis Tarazona 1, La Vall

d'Uixo, Castellon, Espana

リトアニア: 故杉原千畝氏を偲んで

2001年リトアニアにあった故杉原千畝氏の領事館があったカウナスとヴィルニウスに、257本の桜の木が植樹されました。日本リトアニア友好協会では、4月に100本の桜の木を植樹する予定です。

杉原氏は、1940年にリトアニアの領事でしたが、第二次世界大戦中6000人のリトアニア人にビザを発行して、命を救いました。杉原氏の話は、リトアニアの教科書に書かれています。

(英字新聞デイリー・ヨミウリ 12/20/2002 より)

マーシャル諸島に ロンゲラップ平和ミュージアムを

アメリカはビキニとエニウエトク干涉で1946年から58年にかけて、67回の核実験を行いました。中でも、1954年3月1日のブラボー水爆実験で、ロンゲラップ環礁は第五福竜丸とともに、死の灰を浴び被爆しました。

平和ミュージアムの目的は、次の通りです。「ロンゲラップと日本が被ったビキニの核実験による被害と影響、被害を乗り越えようとする被害者と島民のたたかいを展示する。それによって、核兵器のない太平洋と非核の未来の世論を喚起する。また、多くの知られていない被害の実態を明らかに

し、被害者の救済に貢献する。これらの活動を通して、ロングラップ島民と日本国民、ひいては世界の人々との有効の発展に貢献する。」

場所：マーシャル諸島共和国首都マジュロ
総予算：2000 万円

起工式：2003 年 8 月末

開館予定日：ブラボー水爆実験 50 周年

2004 年 3 月 1 日

連絡先：ロングラップ平和ミュージアム設立を支援する会

Tel: 03-5842-6034 Fax: 03-5842-6033

joioi@ballade.plala.or.jp

<http://www9.plala.or.jp/joioi/index.html>

(資料を提供して下さった小島健太郎氏に、お礼を申し上げます)

バルカンに平和公園を

Kosovo、モンテネグロ、アルバニアの国境にあるアラピト山(Mt. Arapit)を、平和公園にしようという取り組みがあります。

国境に平和公園を作るという考えは、新しくはありません。例えば、ノルウェーとスウェーデンが緊張関係にあった 1914 年に、モロクリアに平和公園が作られました。その他、世界には次のような平和公園があります。

アメリカとカナダ：Waterton Glacier

コスタリカとパナマ：Parque La Amistad

ペルーとエクアドル：Cordillera del Condor

南アフリカとモザンビーク：Limpopo

連絡先：Professor Nigel and Mrs. Antonia Young (a.t.i.young@bradford.ac.uk)

韓国、市民社会が平和博物館建立運動を提案する。

ソウルを中心部、龍山(ヨンサン)にある 3 万 5 千坪の戦争記念館は世界的な規模である。韓国社会は本当にこの戦争記念館を自慢すべきか。

戦争記念館に対比される代案的運動として、平和博物館建立運動が韓国で始まった。国際民主連帯ベトナム戦真実委員会、聖公会大人権平和センターは去る 6 月 15 日、「平和博物館建立運動のためのワークショップ」を開いた。

平和博物館運動は、ベトナム戦争真実委員会が「ハンキョレ 21」(ハンキョレ新聞の姉妹紙)と共に行った「すみません、ベトナム」運動から出発した。ベトナム戦争真実委員会は 2000 年 6 月から、「ナムムの家」のハルモニたちが寄付した 700 余万円を基礎としてベトナム戦争の被害地域に平和歴史館建立計画をつくってきた。

この日のワークショップでは、その運動を拡大して韓国社会の市民が参加する平和運動として、平和博物館建立運動が提案された。人権と平和を願う多様な市民団体及び一般市民との幅広い連帯を通じて、21 世紀韓国平和運動の新しいモデルを提示する考えである。

平和博物館建立運動の第一歩として、「ハンキョレ」新聞社と平和博物館建立推進委員会(準備委員会)は平和博物館建立のため、市民募金運動を始めた。今年の末まで集めた募金で来年から休戦線など分断を象徴する場所に平和博物館をつくる計画である。日本の平和博物館との連帯、活発な交流が期待される。

(「草の家」のキム・ヨンファンさん、記事を有難うございました。)



元国連で勤務されていた Dr. Ursula Maria Ruser さんの作品です。

ミュージズの感想：ドイツより

ジュネーブの国連本部に勤務されていたウルスラ・マリア・ルーザーさん(Dr. Ursula Maria Ruser)から、Muse 8 の感想がきました。(1月24日付けの手紙を、要約します)日本の平和博物館は、過去の問題に取り組み、現在の問題にあまり取り組んでいないのではないのでしょうか。これでは、支配者が喜ぶ状況です。平和博物館ができる事として、次のことが考えられます。

1. テロ活動の背景について研究する。
2. 「ばかな白人」のような本を読んで、討論する。
3. 論争的になっているようなホームページを開いて、グループ、子どもたち、大人の中で、批判的に話し合う。
4. マスコミのあり方を、人々に考えさせ

る。

5. 湾岸戦争やアフガニスタン攻撃が、アメリカの石油確保のために行われたことを、子どもたちに示す。ブッシュ大統領の政策の背景などを知らせていくと、人々は支配者が作り上げた恐怖感を抱かなくなるだろう。
6. 伝染病への恐怖はどうだろうか？アメリカはウイルスを持っているが、たとえ伝染病が広がっても予防接種をしているので、大丈夫であろう。そこでお金をもうけていることなど、もっと研究して、平和博物館の訪問者に知らせることが重要である。そうすると、政治のからくりがわかるであろう。これは過去の問題ではないのである。
7. 今日テレビで殺人や戦争の残酷さが報道され、暴力的な場面が報道されているが、なぜ過去の戦争を振り返らないといけないのだろうか？平和博物館での行動は、デモに出かけるというより、平和博物館で戦争の本当の原因を研究することが重要である。平和博物館で学び、外部の力に利用されるのではなく、自分らしく生きることを学ぶことが大切である。

戦争のねらいは、石油やガスなどの天然資源の確保である。

ヨーロッパ平和運動の母であるベルタ・フォン・ズットナー女史は、決して諦めず平和の実現のために努力した。彼女は、現実の問題に取り組んだ。私たちは、今日重要な問題に直面しているのに、過去にばかり目を向けている。そのことに気づいていない。

最後に、「この手紙が参考になることを願

っています」とありました。



国内の資料館・博物館ニュース

大規模な平和博物館のニュースは山辺（国際平和ミュージアム）が、小規模な平和資料館や平和博物館を造る活動は山根（草の家）が担当して、お知らせします。

太平洋戦史館：岩手

「靖国神社、護国神社、市町村の戦没者追悼式で戦没者を追悼するときに、どうか死者の遺骸が野ざらしで放置されている現実を思いおこしてください。」

「昨年秋にビアク島で発見した遺骨の写真を厚生労働省に提出し、政府として調査をしてほしいと依頼しました。しかし本格的な調査はしていないことが1月にわかりました。戦没者のことを忘れないということは、新たな戦争に加担しないためにとっても大切なことなのです。」（「戦史館だより」No.39 より）

ビアク島ゆかりの人々に捧げる書、小説「パラダイス島戦記」が好評です。書店では扱っておらず、直接戦史館にお申し込み下さい。（送料込み 2000 円）

Tel: 0197-52-3000 Fax: 0197-52-4575

仙台市歴史民俗資料館

『資料集』第1冊が2003年3月31日に発行され、その中に、「戦争と庶民の暮らし（1）」として「第二師団管下の配属将校・学校教練関係資料（その1）」「戦時の市民生活資料（1）－公会・隣組、配給統制・供出関係資料など－」「『中学二年生の日記』に見る焼跡仙台」が収録されています。

Tel:022-295-3956 Fax:022-257-6401

平和文化史料館・ゆきのした：福井

「戦争とこども展」が、5月10～11日に開かれました。同協会が所蔵する太平洋戦争に関する資料約四百点のほか、空襲の被害に遭ったイラクの子どもたちの写真など約百点が展示され、とりわけ子どもたちに大きな犠牲を強いる戦争の悲惨さを訴えました。

イラクの写真は、埼玉県在住の佐藤好美さんと東京都在住の森住卓さんの二人の写真家の作品です。

感想も心を込めて記してあり、開催寄付金も寄せられました。

（Kanpow 館報 No.135 2003.5.15 発行より）

Tel/Fax: 0776-52-2169

yukisita@kore.mitene.or.jp

埼玉県平和資料館

軍人や一般人の戦地や外地からの手紙、軍事郵便などを展示する、テーマ展Ⅱ「戦地・外地からの手紙」が企画展示室で、2003

年2月12日～3月9日の会期で開催されました。

2002年度の収集品を展示する「収集資料展」が企画展示室で、2003年4月22日～6月22日の会期で開催されました。

特別映画会は講堂で、2002年12月8日に「おこりじぞう」「五人の斥候兵」を、2003年3月21日に今井正監督の「ひめゆりの塔」をそれぞれ上映しました。

映画会は講堂で、2003年1月11日に「みいちゃんのでのひら」「手塚治虫物語 ぼくは孫悟空」を、2月8日に「樺太犬ゴン太・母をさがせ」「火の雨がふる」を、4月12日に「火の海 大阪」「マヤの一生」を、5月3日に「つるにのって」「おかあさんの木」「石の声」を、6月7日に「ちいちゃんのかげおくり」「火垂るの墓」を、それぞれ上映しました。

平和朗読会が平和資料館と坂戸市との共催により、講堂で2003年1月19日に開かれ、坂戸市の朗読ボランティアグループ「のはな」が、フルート奏者との共演により、「かわいそうなぞう」や向田邦子の小説「ごはん」などを朗読しました。

(「埼玉県平和資料館だより」10巻3号・2003年3月15日発行、より)

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://village.infoweb.ne.jp/~pms>

丸木美術館

企画展「5人の反戦画家」が2002年10月1日～12月21日の会期で開催され、加藤義勝、上條明吉、佐藤俊男、西元利子、水谷イズルの5人の作品が展示されました。10月6日には、出品作家と針生一郎館長に

よるシンポジウムが開かれました。

企画展「生きもの賛歌—丸木スマの描いた動物たち」が2002年12月25日～2003年3月29日の会期で開催され、丸木位里の母であるスマが描いた動物の絵約60点が展示されました。

2003年4月から、丸木夫妻がアトリエに使用していた小高文庫の2階が、来館者のための休憩室兼図書室として公開されています。これに因んで、企画展「丸木位里・丸木俊と水辺の風景」が2003年4月1日～7月5日の会期で開催され、夫妻が描いた水辺の風景約50点が展示されています。

2003年2月14日に喫茶ルノアール新宿区役所横店マイスペース4号室で、丸木美術館友の会の主催により、「豊田直巳スライドと講演のターイラクの子どもたちは今」が開催され、劣化ウラン弾被害の後遺症に苦しむ子どもたちの様子が紹介されました。

2003年5月5日に開館記念日の集いが開かれ、法政大学教授奈良本英佑さんの講演「イラク戦争の意味」、野外コンサート、友の会パーティなどがありました。

(「財団法人原爆の図丸木美術館ニュース」75号・2002年12月25日発行、76号・2003年4月22日発行より)

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukimnsn>

国立歴史民俗博物館：千葉・佐倉市

非文献資料の基礎的研究「近現代における戦争に関する記念碑」調査報告書が2003年3月31日に発行されましたが、これは2000・2001年度の調査成果の報告書で、護国神社・遺族会などの発行した都府県別の

調査報告書、靖国偕行文庫所蔵の府県別の戦没者慰霊碑写真集、自治体史など、既存の調査報告書に紹介された忠魂碑・忠霊塔・慰霊碑などを集大成したものではありませんが、県別調査が未実施の県も多く、また既存の調査にも調査漏れがあって、悉皆的な調査報告にはなっていません。

Tel:043-486-0123 Fax:043-486-4209

豊島区立郷土資料館：東京

2002年度第3回収蔵資料展「豊島の空襲一戦時下の区民生活」が2003年1月24日～3月30日の会期で開催され、区民が書き留めた空襲体験記録・被災品・焼け跡の写真や、東京空襲犠牲者名簿から作成し、犠牲者の住所と遭難地と遭難日を示した豊島区空襲死者地図などを展示し、図録も作成しました。特にこの中で、日本政府広報誌である『週報』において、海軍当局者が重要都市はすべて防守都市であり、無差別攻撃が出来るとして、都市空襲・戦略爆撃を正当化していることを紹介しています。

Tel:03-3980-2351 Fax:045-896-2299

高麗博物館

4月から開館時間が変更になります。

正午開館～5時閉館（水曜～日曜）

2002年11月23日第一回総会が開かれ、記念講演で早稲田大学教授大村益夫氏が「尹東柱一人と作品」と題して、記念講演をされました。「尹東柱は、抒情詩人と革命詩人の両面があり、矛盾しない」と言われています。

12月7日には、高麗博物館開設一周年記念講演で、立教大学李鐘元教授が「朝鮮半島との歴史和解と市民社会」と題して講演をされました。詳細は、通信「高麗博物館」を御覧下さい。

Tel&Fax: 03-5272-3510

E-mail: kourai@40net.jp

<http://www.40net.jp/~kourai>

第五福竜丸展示館：ビキニ水爆実験

被災50年記念プロジェクト

1954年3月1日、アメリカが太平洋マーシャル諸島のビキニ環礁でおこなった水爆実験により「死の灰」をあびて被ばくした遠洋マグロ漁船第五福竜丸は、いまだ航海中です。

都立第五福竜丸展示館では、被ばくから50年目の2004年2月から記念事業をスタートさせます。これは展示館を運営する財団法人第五福竜丸平和協会がおこなうもの。展示館には、年間10万人余の市民が訪れ、とくに小中高生など若い見学者は4万人にのぼります。ここは船の現物を見上げながら、ビキニ事件と半世紀後のいまの世界をむすび考える平和の学習の場となっています。

記念プロジェクトは、「事件を知らない世代につたえ知らせる」をテーマに、展示館の常設展示のリニューアル、事件を知る特別展の開催と巡回展示、マーシャル諸島の被害についての特別展、アメリカと日本の現代アーティストによる美術展、学術シンポジウム、図録の記念出版などが企画されています。

平和協会では、祈念プロジェクトへの参加

をひろくよびかけます。情報・資料のお問い合わせは、URL <http://d5f.org> 電話 03-3521-8494 江東区夢の島 3-2 第五福竜丸展示館まで。

東京大空襲・戦災資料センター

館長 早乙女勝元

開館から、まもなく1周年を迎えようとしています。なにしろ初めての経験ですから、スタッフ一同、無我夢中できたという感じです。この原稿を書いている現在、参観者は1万3000人を越えました。小さな建物なのに、これは予想外の数で、びっくりしています。参観者の内訳ですが、地元や都内はもちろんのこと、北海道や沖縄まで全国各地から。そして、次代を担う小中高生たちが1割以上占めます。彼らは修学旅行で、あるいは総合学習や学芸会、文化祭のテーマなど、もく低はいろいろですが、ひたむきに学んでいる姿が特徴的です。

感想ノートに、それぞれの思いを書いたくださった方々は千人に近く、戦災体験のある方はその思いを綴り、戦後世代は追体験の重さを、そして小中高生達は、平和の願いを切実に帰しています。呼んでいく度に胸が熱くなり、ああ、苦勞してこのセンターを立ち上げてよかったとしみじみ思うのです。

しかしまたふたたびキナ臭い状況となってきました。あの戦争で民衆はどのような犠牲を強いられたのか、その事実を語り継いでいくことは、「いつかきた道」へのブレーキとなり、明日の平和への力に結び合うと信じて疑いません。この小さな平和の拠点、やがて線となり面となりますように、

ご支援をさらにお願ひする次第です。

(ニュース No.2 2003/2/1 発行より)

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

浅川地下壕の保存をすすめる会：東京

ニュース「Peace あさかわ」No.32 には、「写真でみる浅川地下壕の歴史」が紹介されています。浅川地下壕は、八王子市にあります。2月には埼玉平和資料館、丸木美術館、吉松地下壕(吉見百穴)に29名が参加しました。

この地下壕は、中島飛行機のエンジン製造の大宮工場を移転させることが当初からの目的で、作られました。計画面積は一万坪で、浅川地下壕とちょうど同じ規模のものでした。1945年1月に掘削工事が始められ、300台もの工作機械が据え付けられましたが、飛行機のエンジン本体は一台も閉静させることができないうちに、終戦の日を迎えることになりました。(Peace 浅川 No.33 より)

Tel: 042-782-4487 Fax: 042-782-4875

<http://www.asahi-net.or.jp/~cv6v-ymns/>

ホロコースト教育資料センター

4月1日より下記の住所へ移転しました。

〒160-8565 東京都新宿区須賀町5番地

Tel: 03-5363-4808 Fax: 03-5363-4809

www.ne.jp/asahi/holocaust/tokyo/

holocaust@tokyo.email.ne.jp

NPO 法人として新しくスタートしました。展示パネル貸し出しの申し込みが、ホームページからできるようになりました。また

本の貸し出し、ホロコーストの授業、資料・教材の紹介をします。メールマガジン（無料）もあります。

日吉台地下壕保存の会：神奈川

日吉台地下壕は、横浜市港北区にある慶応義塾大学日吉キャンパス内に所在する海軍連合艦隊司令部などの地下壕です。現在見学が可能なのは連合艦隊司令部部分ですが、ここと地下壕で続いている航空本部、情報部等が使用していた地下壕のある斜面緑地に、マンション開発の計画がもちあがりました。日吉台地下壕は文化庁が史跡の指定に向けて調査を進めている近代の軍事に関する遺跡です。4月10日、保存の会は、横浜市と開発業者に、要望書を提出し、少なくとも文化庁の調査が終わり、その結果が出されるまでは、開発許可申請について判断をしないようお願いをしました。

（日吉台地下壕保存の会会報第66号 2003年4月18日より）

Tel: 045-562-0443

<http://www.geocities.HeartLand-Hanami-zuki/2402>

女たちの戦争と平和資料館：東京

事務局長 有村順子

「女たちの戦争と平和資料館」は、女性に対する暴力と、女性の人権の確立、平和の実現のために国際協力活動を行ってきた女性グループ、個人によって建設されます。

戦争はグローバルに広がり、世界各地で地域紛争が頻発しています。こうしたなかで女性の人権を守り暴力をなくして平和を

創りだしていくために、資料館は20世紀の女性たちの戦時下での被害と加害の事実を記録して記憶にとどめ、その成果を次の世代に伝える拠点としての役割をはたしていきたい。

資料館の活動運営は5つの理念をもって行います。

①ジェンダー正義の視点にたち、戦時性暴力に焦点をあてる②被害だけでなく加害責任を明確にする③過去・現在の資料の保存・公開だけでなく未来に向けての活動の拠点にする④国家権力とは無縁の民衆運動として建設・運営する⑤海外へも情報を発信し、国境を越えた連帯活動を推進する……です。

資料館の活動は大きく分けて3つあります。ひとつは過去の記録と記憶の活動です。ここには2000年12月に開かれた「女性国際戦犯法廷」の4年にわたるプロセスである資料や、各国「慰安婦」被害者の民事訴訟関連資料、「慰安婦」問題に関わるアジア各国の被害調査などが整理探索できるようになっています。ビデオ証言やオーラルヒストリーを記録した映像資料などもインターネットで探索できるようにします。

ふたつは、現代の戦争や紛争下における女性への暴力の被害の実態をみつめ、世界にひろがる女性たちの反基地、反戦・平和活動について、独自の視点で活動を共有・発信し平和を創る活動を促進します。

そして三つ目は学習・教育・平和を創る活動のための拠点です。ミニシアターや小規模な会合や、展示会など平和を創ろうという人たちが集える場です。そこに女性国際戦犯法廷に奔走し、この資料館建設の夢を語った松井やよりさんの著書や、寄稿が検索・閲覧できます。

現在、多くの関係者の方がたと建設委員会を立ち上げ資料館の具体的な活動を企画構想を話し合っています。

「私たち」の資料館として建設を通して多くの人たちとともに、戦争を記憶し記録する活動と現代の紛争をつなぎ未来の平和を創る活動を作りあげたいと思います。

できるだけ便利な場所に建設したいと、ただいま1億円募金キャンペーン中。

NPO 法人女たちの戦争と平和人権基金
〒169-0073

東京都新宿区百人町 2-23-25

矯風会第二会館 203

TEL&FAX 03-3369-6866

e-mail:info@wfpshr.org

神奈川県立地球市民かながわプラザ

「2001 ユネスコ・アジア太平洋写真コンテスト—私たちの装い—」の入選作品100点を紹介する「ユネスコ・アジア太平洋写真展—私たちの装い—」が、3階企画展示室で、2003年1月25日～2月16日の会期で開催されました。

(「地球市民レポート」15号・2003年3月1日発行、より)

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/plaza>

松代大本営の保存をすすめる会：長野

松代大本営工事朝鮮人日本人犠牲者追悼のつどいが、2002年11月11日清野の平和祈念館建設予定地で行われました。会を重ねて14回目のつどいです。今年も篠ノ

井旭高校強度研究班、朝鮮大学校、金順子さん、コープながのなど、各方面から約130人の方々が集いました。

4月29日、第7回憲法の森デーが、平和祈念館建設予定地の松代町清野地区で祈念館建設実行委員会の主催で行われました。参加者は長野俊英高校郷土研究班の現役、卒業生、そのお母さんを中心に、建設実行委員会、すすめる会など50数名で作業に取り組みました。

参加した女性は「草取りに参加することによって建設運動に自分も関わっている事を実感した。こういうことによって前へ進んでいくんですね」と話してくれました。

(松代大本営の保存をすすめる会ニュース保存運動代149号5/10より)

静岡平和資料センター

4月25日から6月8日まで、静岡平和資料センター主催で、「子どもたちのための『悪魔の兵器・対人地雷』展」が開催されました。イラク戦争では、多くの不発弾が「第二の地雷」として残るクラスター爆弾が使われています。5人の日本人カメラマンが、アフガニスタンやイラクなど地雷被害が著しい国で移した写真40点が展示されました。

6月19日から9月28日まで、「空襲体験画」展(仮称)をします。1945年6月19-20日、アメリカの爆撃機B29が落とす焼夷弾の雨に、静岡の街は炎の海と化し、2000人以上の人々が焼死しました。地上で見た事実を、体験者の方々が絵にしました。

Tel & Fax: 054-247-9641

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa>
shizuoka-heiwa@nifty.com

平和人権子どもセンター：大阪

これまで日本の教科書に関する貸し出しパネルを数多く作製してきましたが、最近「教科書問題後の小・中教科書（社会・音楽）検証パネル」セットを作製し、教科書「心のノート」に関するパネルを追加しました。巡回展「教科書が語る20世紀展」は、全国各地で行われています。

平和人権子どもセンターだより「草の根」第20号(2003年4月5日発行)には、教科書「こころのノート」と戦前の修身の類似性が指摘されています。それができたのは、家永教科書訴訟支援大阪地区連から修身教科書を含む4000冊を超える教科書が、当教科書資料館に寄贈されたからです。「家永三郎先生が32年間の教科書裁判訴訟のなかで「戦争へのあゆみを阻止することができなかった過ちを二度と繰り返してはならない」という提起を改めて心に刻みたい。」(吉岡数子)

(「明日へ・・・静岡平和資料館をつくる会 ニュースレター」No.54

2003/5/20 より)

Tel: 072-229-4736 Fax: 072-227-1453

立命館大学国際平和ミュージアム

パキスタンのペシャワールを拠点にパキスタン・アフガニスタンでの医療活動や干ばつ対策の井戸掘りや用水路建設をおこな

っているペシャワール会の活動を写真などで紹介する、特別展「井戸も掘る医者ーペシャワール会の医療活動・緑の大地計画」が1階の中野記念ホールで、2003年5月15日～6月15日の会期で開催されました。記念講演会は5月21日にペシャワール会広報担当理事の福元満治さんが「医療協力の19年とアフガニスタンの現状」と題しておこないました。

読売新聞連載で、永遠に残したい美しい日本の風景を読売新聞社の報道カメラマンの河村道浩さんが撮った写真を展示する「季語の風景」写真展が読売新聞社主催・立命館大学国際平和ミュージアム共催により、1階ラウンジで、2003年5月15日～6月17日の会期で開催されました。記念講演会は5月15日に河村さんが「新聞写真の創造の現場」と題しておこないました。

「世界の子どもの平和像・京都」が、2003年5月5日から立命館大学国際平和ミュージアムの地階展示室入口前に仮設置されました。高校生を初めとする子どもたちの運動でつくられた「世界の子どもの平和像」としては、東京・広島に次ぐもので、地球上に4人の子どもと、日本で平和を意味する折り鶴と、朝鮮で慰霊を意味する折り亀が乗った形をしています。

大阪国際平和センター (ピースおおさか)

20世紀に人類が犯した愚行を写真で紹介する特別展「百年の愚行」が、2003年1月10日～3月16日の会期で、1階特別展示室で開催されました。

15年戦争で失われた文化財を紹介する

特別展「戦時下の大阪一失われた文化財」が、3月25日～5月18日の会期で、1階特別展示室で開催されました。

対人地雷で被害を受けたカンボジアの人の写真やボスニア・ヘルツェゴビナの子どもたちの絵などを展示する特別展「地雷のあしあと」が、5月27日から7月13日の会期で、1階特別展示室で開催されています。

「21世紀の平和を考えるセミナー」が、第4回は特定非営利活動法人アジアボランティアセンター代表の平田哲さんによる「NGOレポート アジアの現状とNGOの取り組みの中から」が2003年1月26日に、第5回は朝日新聞特別編集顧問の船橋洋一さんによる「『歴史的和解』のプロセスと展望」が3月2日に、第6回は大阪大学文学部助教授の富山一郎さんによる「戦争に抗するカー沖縄戦の経験から考える」が6月28日に、それぞれ開催されました。

2002年12月7日に開戦の日平和祈念事業として講堂で、映画評論家の佐藤忠男さんが「映画に描かれた戦争ー日本映画編」と題して、講演しました。あわせて、12月8日、14日、15日、21日、22日に同じく講堂で、「きけわだつみの声」「原爆の子」「ひめゆりの塔」などの映画が上映されました。

2003年3月13日に大阪大空襲平和祈念事業「大阪が燃えたー空襲の証言ー」が講堂で開催され、関西大学名誉教授の小山仁示さんの講演「空襲体験と歴史の真実」、語り芝居「あの日私は」パートII、ビオラ演奏・平和への折り「カタルーニャ民謡『鳥の歌』」ほか、おこなわれました。大阪国際平和研究所の紀要『戦争と平和』

12号が、2002年3月31日付で刊行されました。この号には、今日的テーマの論文2本と地道な掘り起こしによる研究成果5本の合計7本の論文が収録されています。

戦跡フィールドワーク「中寺町近辺をたずねる」が2003年5月18日に開催され、ほお焼け地蔵がある専修院、被災したクスの木のある報恩院、地下防空壕のある生玉公園など空襲の跡を歩きました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.mydome.or.jp/peace>

吹田市平和祈念資料室

「平和映画会」を毎月開催していますが、2002年12月は1948年ソ連映画で、戦傷し作曲家をめざす若者を描いた「シベリア物語」を7・8・14・15日に、2003年1月は1930年アメリカ映画で、第一次世界大戦の残酷さを描いた「西部戦線異状なし」を11・12・25・26日に、2月は1930年アメリカ映画で、モロッコに駐屯する外人部隊の兵士を描いた「モロッコ」を8・9・22・23日に、3月は日本のアニメ映画で、東京大空襲の中での幼い兄弟とカバとの交流を描いた「さようならカバくん」と広島原爆を描いた「おこりじぞう」を8・9・21・23日に、4月は1957年西ドイツ映画で、ウィーン少年合唱団を描いた「野バラ」を12・13・26・27日に、5月は1988年日本映画で被爆前日と当日の長崎を描いた「TOMORROW 明日」を11・12・24・25日に、6月は1932年アメリカ映画で、第一次世界大戦時の女スパイを描いた「マタ・ハリ」を14・15・28・29日に、それぞれ上映しました。

Tel:06-6387-2593 Fax:

堺市立平和と人権資料館

「ユネスコアジア・国際写真」展が 2003 年 4 月 6 日～6 月 29 日の会期で開催されました。

Tel: 072-270-8150 Fax: 072-270-8159

姫路市平和資料館

収蔵品展「資料は語るⅡ」を 2003 年 1 月 8 日から 3 月 30 日の会期で開催しました。実物資料・写真・映像から戦争下の子どもたちの様子を伝える、企画展「子どもたちと戦争」を 2003 年 4 月 5 日から 7 月 13 日の会期で開催しています。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526

広島平和記念資料館

資料館とNHK広島放送局・中国新聞社などが共同で 2002 年に募集した「原爆の絵」や、写真・手記・被爆資料などを展示する 2002 年度第 2 回企画展「原爆の絵—市民によるヒロシマの記憶—」が東館地下 1 階の展示室（4）（5）とその前の廊下で、2003 年 3 月 5 日～7 月 6 日の会期で開催されています。

2001 年に宇吹暁さんを介して入手した、被爆者で市民平和活動家であった故吉川清氏の資料を整理していますが、その中間報告が 2003 年 3 月 27 日にありました。書籍 514 冊、写真フィルム 248 本、プリント写真 2102 点についてはリスト化がほぼおわり、ハガキ・手紙・原水禁運動関係機関紙・チラシ・日記などの実物資料約 5000 点につ

いてはリスト化中です。

広島平和記念資料館は自らの調査研究活動をすすめるため「広島平和記念資料館調査研究会」を組織してきましたが、その成果である研究報告や資料調査報告を掲載する『広島平和記念資料館研究報告』第 1 号が、2003 年 3 月 31 日に発行されました。

（広島平和文化センター「平和文化」148 号・2003 年 3 月 1 日発行、149 号・2003 年 6 月 1 日発行より）

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941

<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/peacesite/>

hpcf@pcf.city.hiroshima.jp

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

原爆で肉親を失った人びとの体験記や遺影・遺品などを展示する 2003 年度の企画展「しまつてはいけない記憶—肉親を奪われて」が地下 1 階の情報展示コーナーで、2003 年 4 月 1 日～2004 年 3 月 31 日の会期で開催されています。

（広島平和文化センター「平和文化」149 号・2003 年 6 月 1 日発行より）

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273

<http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

高松市市民文化センター平和記念室

平和記念室収蔵品展が、高松市市民文化センター 1 階の平和記念室前のロビーで、2002 年 11 月 19 日～24 日の会期で開催され、戦時下の児童生徒の生活についてのなどのパネル約 30 点と、陸軍兵士の軍装品、学用品、おもちゃなど、県民から寄贈された収蔵品約 70 点を展示しました。

巡回原爆展が、高松市市民文化センター 1 階ロビーで、2003 年 5 月 20 日～25 日の会期で開催され、原爆に関するポスター・パネルなどを展示しました。

平和祈念親子映画会が 2002 年 11 月 23 日に、高松市市民文化センター 3 階の講堂で開かれ、大分市の防空壕で、胸を病み餓死した少女ムッチちゃんを描いた「ムッチちゃんの詩」が上映されました。

憲法記念平和映画祭が 2003 年 5 月 24 日に、高松市市民文化センター 3 階の講堂で開かれ、アニメ映画「青い目の人形」が上映されました。

（「平和記念室だより」 9 号・2003 年 1 月発行、10 号・2003 年 4 月発行、より）
Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7981
<http://www.city.takamatu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sbsenter/heiwa.htm>

平和資料館「草の家」：高知

国連の軍縮教育専門家、反核平和運動家のキャサリン・サリバンさんが、「わかりやすい核・平和の話」11 月 30 日にされました。

エネルギーを変えれば、世界が変わる。

「草の家」は、12 月 20 日ソーラーシステムを導入しました。屋根に出窓があるため大きなパネルを置けず、発電量は 2.32 kw、「草の家」の使用する電気を自力でまかなえる量にすぎませんが、エネルギーと自然との関連や節電についての意識が生まれる効果があります。設置費用は、約 160 万円でした。

3 月 7 日に「チョムスキー 9.11 Power and Terror」の上映会をしました。イラク攻撃

反対署名を集め、約 400 余命入場しました。なおイラク戦争に抗議してピースライブや街頭での活動は、次に書いていますので、御覧下さい。

GRH@ma1.seikyoku.ne.jp

<http://ha1.seikyoku.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/>

もう戦争はいらない

街頭平和メッセージ行動を続けて

「草の家」副館長 玉置啓子

世界中の人々の反戦の声と国連の決議を無視して、米英のイラク攻撃が不可避となった 3 月 19 日、草の家に集う「平和を願う市民有志」と、学生のグループ「Flowers of Peace in Kochi」そして「ピースライブインこうち」は、街頭で「米英のイラク攻撃反対、小泉内閣の米英支持反対」行動を起こすことにしました。

毎日 12:00～1:00 には、平和のメッセージを集める活動、夕方 6:00～7:00 には、命を守るキャンドルをともす活動を始めました。場所は高知市の繁華街にある中央公園の入り口で、商店街の通りに面した小さなスペースです。

「ピースライブインこうち」の「すべての武器を楽器にしよう」の旗と「イラクの子供たちを殺すのはもうやめて」の旗を掲げ、模造紙の巻紙を地面に広げて、道行く人々にカラーマジックで平和を願うメッセージを書いてもらいます。イラク戦争の真実を伝える写真パネルも展示。通りかかる人は次々と足を止めて模造紙にメッセージを書いてくれます。

特に 10 代 20 代の若い人たちが関心を

持って、「戦争反対、平和が一番!」「戦争からは何も生まれない。」「みんな命は同じ。」「LOVE&PEACE」等様々な平和のメッセージや絵をカラフルに書いてくれます。小学生や小さな子供たちも一生懸命、書きます。

幅約70cm長さ30mの模造紙のロールがどんどんメッセージで埋まっていき、現在では既に13本目になっています。

メッセージはすべて写真にとって、ポケットアルバムに納め、抗議の手紙とともにブッシュ大統領、小泉首相に送っています。現在までに40枚入りのポケットアルバムを9回送りました。

夜は参加者がキャンドルをともし、「NO WAR」の文字の上にもろうそくを並べ、道行く人に点火してもらいました。

残念ながら3月20日に米英軍のイラクに対する爆撃が始まってしまいましたが、私たちは毎日昼夜2回の行動を続け、無法なイラク攻撃即時停止を訴えました。

この行動にはピースライブのミュージシャンも時々参加して歌や楽器を演奏してくれ、通りかかった人たちの中には足を止め聞き入る人も居ます。

この行動のスタッフには誰でも自由に参加することができます。通りかかって参加し始めた高校生たち、新聞やテレビで知ってやってきた人、友達に誘われてきた人、お互い初めて会う人たちが「平和な世界を」の思いで、つながっていています。また、他県からの旅の途中というミュージシャンも参加したり。

自由な雰囲気とそれぞれのスタイルで平和を作っていこうというのが共通の約束になっています。

バクダッド陥落後世間では急にイラク問題への関心が薄れていきました。私たちは今後どうするかを話し合い、戦争はまだ終わっていない、米英の責任、小泉政権の有事法制成立のねらいなど危険がいっぱいある、やはりこの行動を続けようということにしました。

そして、「もう戦争はいらない」の旗を掲げて、4月16日からは毎週日曜午後1:00~5:00と金曜6:00~7:00の行動を続けました。(6,15以後は毎日曜2:00~4:00のみ)

同じ場所で行動を続けることによって、何かしたいと思っている人が立ち寄ってくれるかもしれません。そういう平和のスポットになればと思います。

有事法制の国会通過で緊迫した5月23,24日の全国国会要請行動には、このなかから若い人が3人メッセージのロールを持って東京まで行きました。

6月15日には中央公園で大規模なピースライブを開き、21組のミュージシャンが出演し、音楽を通じて平和を訴えました。

イラク戦争はイラクの人々に測り知れない被害をもたらしました。日本政府はそれを支持し、さらにアメリカの戦争に参加するための有事法制も通りました。今又イラクの人々に銃口を向ける自衛隊派遣の「特措法」が通ろうとしています。平和は遠ざかろうとしているかに見えます。

でも、街頭で真剣にメッセージを書き込む小学生や中学生を見ると、その子たちの純粋な気持ちがそのまま育てばきっと日本も世界も変わるに違いない、私たちは平和

の種をまき、育てていくその仕事を続けていきたい、そう思うのです。

松山市に平和資料館を

松山市民の戦争の記憶、資料、遺品などを収集整理し常設展示する資料館開設を目指す「松山市平和資料館をつくる市民の会」（畑野稔代表、約百人）の第一回市民のつどいが2002年12月8日、松山市の愛媛大学で開かれました。市民ら約40人が集い、公園やパネルディスカッションを通して、開設の必要性について知識を深めました。

高知県の戦災と空襲を記録する会の梅原憲作会長が、高知市の平和資料館「草の家」の開設から今日までのあゆみについて講演。「戦争の資料は散逸させてはいけない。行政ともうまくかわりながら、保管保存することが大切」と訴えました。同会では、「戦争の悲惨さと平和の尊さ、歴史の真実を市民と子どもたちに伝えたい」とし、「署名を集め、2003年9月の市議会に請願書を提出したい」と話しています。

（愛媛新聞 12/11/2003 より）

松山市平和資料館をつくる市民の会準備会：松山市文京町3 愛媛大学法文学部和田研究室 Tel& fax: 089-927-9260

heiyu-@mue.biglobe.ne.jp

鳴門市ドイツ館

鳴門市ドイツ館館報第5号 Ruhe（ルーエ やすらぎ）では、第一次世界大戦の際のドイツ兵俘虜収容所（全国で12ヶ所：東京、名古屋、大阪、徳島、大分、福岡、熊本など）についての研究誌の刊行への協力

を訴えています。

3月1日から1年間にわたり、毎月第一土曜日に「ドイツ文化講座」を開いています。生活習慣、環境意識、ごみの処理制度、学校の教育や学生生活、ことわざなどについて学ぶことができます。

Tel: 088-689-0099 Fax: 088-689-0909

doitukan@city.naruto.tokushima.jp

長崎原爆資料館

企画展「原爆資料館所蔵資料展」が、地下2階の企画展示室で、2003年2月4日～3月27日の会期で開催されました。

「林重男写真展」が、地下2階の企画展示室で、2003年5月9日～8月31日の会期で開催されています。林重男は1945年10月に記録映画のスチール写真担当として長崎に入り、長崎の街の惨状を撮影した人です。

（「へいわ ピース・ウイング長崎会報」97号、2003年1月20日発行より）

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

ナガサキピースミュージアム

4月19日、平和への根愛を発信しようと、長崎市出身のシンガー・ソングライター、さだまさしさんが設立を呼びかけた「ナガサキピースミュージアム」が長崎市松が枝町にオープンしました。

世界の紛争地に関する情報だけでなく、各国の子どもたちの笑顔や美しい自然、音楽を紹介しながら、平和の尊さを感じてもらうのが展示の特徴だ。

建設費の約4000万円は、すべて賛同者の

募金でまかなった。入館は、無料です。
(高知新聞 4/20/2003 より)

兵士・庶民の戦争資料館：福岡

「兵士・庶民の戦争資料館」を開設された武富登巳男氏が、2002年11月24日に84歳で他界されました。心から冥福をお祈り致します。

その後、妻の智子さんが館長になられ、1月22日に資料館を再館されました。

5月6日から6月3日まで、「将軍 遠藤三郎 不戦の思想」展を開きました。遠藤氏は戦後、終生護憲ひとすじを貫いた元憲法擁護国民連合代表でした。武富氏が最も薫陶を受け、「不戦の思想」形成に多大な影響を与えた人物です。

『武富登巳男が語る戦争と戦争資料』ビデオが完成しました。映像は、1992年11月「兵士・庶民の戦争資料館」にて撮影したものです。(制作者：原中誠志)

上巻、下巻、一本 5000 円

申し込み先：福岡県鞍手郡小竹町御徳

「兵士・庶民の戦争資料館」

武富智子(Tel: 0949-62-8565)

岡まさはる記念長崎平和資料館

第3回南京大虐殺生存者長崎証言集会在、12月14日に開催されました。夏淑琴さんは、1937年12月、日本軍が南京を占領したとき8歳。家族9人のうち7人が殺害されました。

両親、祖父母を目の前で殺され、さらに日本兵はまだ15歳と13歳だった二人の姉を乱暴した上やはり殺害、自分も背中を銃

剣で突き刺され、今でもその傷が残っています。

また講演者の趙衛さん(南京大虐殺記念展示部副主任)は南京大虐殺の実相を述べた後、「南京と長崎の市民は、平和の大切さについて共に深く考えることができます。過去の過ちを繰り返さず、歴史に学びましょう」と訴えられました。

証言と講演の後、会場の夏さんとほぼ同世代という女性が、戦時中自分の親戚から「虐殺」の話を聞いたこと、戦後ずっと日買いにあった中国の人々のことに思いがいたらなかったことをお詫びしたいことを述べられ、夏さんと抱き合うようにしてかたく手を取り合うシーンも見られ、こうした民間の相互交流の大切さをあらためて実感させられました。(西坂田より 第33号 3/1)

論文「長崎における中国人強制連行問題の解明と今後の展望—2002年夏の生存者の来崎を中心に」(新海智広)

Tel & Fax: 095-820-5600

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

長崎原爆祈念館が開館

新設された「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」(長崎市平野町)の開館式が7月5日、被爆者や関係者ら役120人が参加して行われた。入館無料。

被団協の山口仙二代表委員は、「被爆者と遺族が努力して、二度と悲劇を繰り返さないことが大切だ」と話していた。同祈念館は、原爆の犠牲を後世に伝え子言う旧平

和を祈るため、国が44億円かけ建設した。
(高知新聞 7/6/2003 より)

わびあいの里：沖縄

財団法人わびあいの里・反戦平和資料館は、人生をかけて平和づくりに専念してきた故・阿波根昌鴻によって非暴力の平和思想を普及するために設立されました。阿波根氏の実績をひろめていくために、「心の反戦地主」の会では、会員を募集しています。
(花は土に咲く 第五号 2002/9/21 より)

Tel: 0980-49-3047 Fax: 0980-49-5834)

出版物

* 『立命館平和研究—立命館大学国際平和ミュージアム紀要—第4号』

特集～平和のための博物館市民ネットワーク第2回全国交流会報告、舞鶴市明倫国民学校梅田学級児童画、「核抑止論の虚構とブッシュ政権の核兵器政策」(安斎育郎)

* 鳴門教育大学・鳴門市「共同研究報告書：地域社会における外来文化の受容とその展開—「板東俘虜収容所」を中心として」2003年3月(鳴門市ドイツ館館報ルーエ第6号より)

* 『平和文化研究』第25集 2003/3/31
鎌田定夫先生が逝って1年—遺したものと残された世界(芝野由和)、9.11後の平和—単独主義と平和について考える(最上敏樹)など



アメリカのワシントン州ベインブリッジ島のジェラルド・エルフェンダール氏(Gerald Elfendahl)から、イラク戦争に反対する市民の写真が入ったカードが送られてきました。撮影は、ジョエル・サケット氏(Joel Sackett)です。このような地域での平和活動をテーマにしたカードを、それぞれのミュージアムショップに置くと、いいのではないのでしょうか？

原稿募集

英文の *Muse* を7月と12月に海外の平和博物館に発送します。日本各地の平和博物館、資料館などのニュースを載せますので、「草の家」に原稿や資料を送って下さい。

780-0861 高知市升形9-11

「草の家」国際交流部 山根和代

Tel: 088-875-1275 Fax: 088-821-0586

GRH@ma1.seikyou.ne.jp

<http://ha1.seikyou.ne.jp/home/Shigeo.Nishimori/> (このホームページで、ミュージズと英文 *Muse* を読むことができます。韓国の平和研究者、平和活動家のキム・ヨンファンさんのおかげです。有難うございます。)

平和博物館会議のお知らせ

す。kvamane@sings.jp)

11月15-16日に、立命館大学国際平和ミュージアムで、平和博物館、平和資料館、これから平和博物館を造りたいと考えている団体を中心に、会議を開く予定です。

主として、ベルギーで開催された平和博物館国際会議について、参加者からの報告を予定しています。

* 太平洋戦史館（岩淵宣輝氏）：「戦没者遺骸捜査継続で、人権無視と人命軽視の戦前の呪縛を解く」（遺族会目当ての集票活動：靖国参拝VS未帰還日本兵現地搜索）

* 同館（花岡千賀子氏）：「ヨーロッパ・平和博物館で学んだこと」

* 第五福竜丸（藤田秀雄氏）：「平和学習センターとしての博物館」

* 草の家（キム・ヨンファン氏）：「侵略と抵抗、アジア共通の歴史認識を考える」

* 草の家（山根和代）：「平和博物館国際ネットワークの現状と課題」

* 「女たちの戦争と平和人権基金」理事 西野瑠美子氏：「女性国際戦犯法廷から女たちの戦争と平和資料館へ」

* 南守夫氏：「自衛隊内の戦争記念館について（中間報告）」

さらに各地の活動内容の交流をしましょう。

発表を希望される方は、立命館大学国際平和ミュージアムの山辺氏に御連絡下さい。

*** 翻訳者、募集 ***

海外のニュースをボランティアで翻訳、あるいは要約する方を募集しています。少しでも構いませんので、是非協力をお願い致します。（連絡は、山根までお願いしま